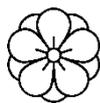


「児童理解と合理的配慮のために」

ことば はったつ
言葉の発達



青梅市立河辺小学校
ことばときこえの教室

東京都青梅市河辺町5-24
0428-22-2103

WEB



○言葉の発達に課題があるとは、どんなこと？

児童によって、様々な様子と色々な原因が考えられるため、一概に言うことはできませんが、自分の言葉で何かを説明したり、自分の思いを話したりすることに苦手さがあり、上手く伝わらないような様子を指します。また、相手が話す言葉を正しく理解できずに誤って捉えてしまうこともあります。言葉は、日々の生活の中で触れ、身に付けていくものです。ことばの教室では、生活に根差した言葉に触れる機会を作って、個別指導で言語の発達を促していきます。ただし、言葉の発達については、どのような誤り方をしているかどうかで、ことばときこえの教室か特別支援教室かを選択していくこととなります。

知識や文法的な苦手さ

- 知っている言葉が少ない
- 助詞の誤りや文末表現のあやま
りが多い。
- 「あれ、それ」などを多用する。
- 読んでも内容が上手く理解でき
ない。 など

相手や場に合った言葉を選 ぶことが苦手

- 突拍子の無いことを話したり、
ずれたりしてしまう。
- 相手の言うことを言葉通りに捉
えてしまう。
- 興味が限定的で、知っている言
葉の偏りが大きい。 など

ことばときこえの教室

- 1対1の個別指導のみ
- 教員と様々な言葉に触れながら、知っ
ている言葉を増やしたり、正しい使い方を
学習したりしていく

特別支援教室

- 1対1の個別指導と小集団指導がある
- 個別指導で言葉の知識を増やしつつ、小
集団指導で実際に他者と関わりながら、言
葉の選び方や理解について学習していく
ことで、言葉の使い方を学習していく



言葉そのものに
関連する課題



やり取りの中で
生じる課題

ことばときこえの教室は個別指導のため、指導内で意図的に同年代の児童と関わる時間を設定することが難しいです。場や相手に応じて言葉を理解したり、話したりする力を伸ばすには、特別支援教室で個別指導と小集団指導を繰り返して言葉を学ぶ経験が大切になります。支援先を検討するときのポイントにしてみてください。今回は、ことばときこえの教室で学習している内容に焦点を当てて紹介します。

○どんなことで困るの？

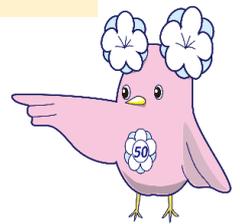
言葉に苦手さをもつ児童の困り感は、コミュニケーション面や、学習面に表れることが多いです。

コミュニケーション面

- 友達と上手く話ができない。友達の話についていくことができない
- 他者に自分の話したいことが上手く伝わらずにイライラする
- 何かトラブルがあった際に、自分で上手く状況を説明できず、理解してもらいにくい
- 言葉の誤りを友達に指摘されて嫌な思いをする
- 発話する場面を避けるようになる

学習面

- 学習には、言葉を使用することが多いため、学習全般に苦手さが見られることがある
- 【例】・漢字がなかなか定着しない(熟語の知識が少ないなどの理由)
- ・文章の読解や文章題が苦手になる(読み取りの苦手さと、表現の苦手さなどの理由)
 - ・社会などで、実物のない抽象的な事柄の理解が苦手になる
 - ・指示の理解が苦手になることで、実技教科や集団行動などにも苦手さが見られる



○先生にお願いしたいこと

【指示をする際】

- 用件は、なるべく簡単な言葉で短く伝え、一度に複数の事柄は伝えないようにする

【話を聞く際】

- 児童の話を一先回りして解釈せず、最後まで話を聞く
- 児童の話を、メモや図にして見せたり、整理して確認したりしながら聞く

【児童が言葉を誤った際】

- 毎回「違うよ」と指摘するのではなく、正しい言葉をさりげなく復唱し、耳に入れる
- 誤りやすい言葉については、別の機会を設け、丁寧に教える

【授業の際】

- 使用する言葉の意味を丁寧に確認する
- 授業に簡単な絵や写真、動画などを取り入れる(言葉のみに頼った学習方法を避ける)

○ことばときこえの教室でやっていること

言葉の苦手さを確かめる検査(発達検査・言語の検査など)

「言葉」と一言で言っても、たくさんの要素があります。言葉のどの部分に苦手さがあるのかを確かめたり、児童の苦手さの背景を探ったりして、分かりやすい方法として学習を進めていきます。

【例】・ 知っている言葉が少ない

- ・ 助詞の誤りや、文末表現の誤りが多い
- ・ 言葉の聞き取りが苦手
- ・ 理解はできるが、言葉で表現することが苦手

学習の内容

言葉は、本来やり取りの中で自然と身に付けていくものです。通級でもやり取りをしながら取り組むことに重きを置いて指導しています。

【語彙の力を高める指導の例】

- ・ 絵カードと言葉をマッチングさせる学習
- ・ 身近な物とその名前をマッチングさせる学習
- ・ 言葉の仲間分けや上位概念を表す言葉についての学習
- ・ 言葉同士の繋がりや、言葉が含む要素についての学習（連想ゲームなど）
- ・ テーマに沿った言葉を挙げていく学習

【文法の力を高める指導の例】

- ・ 正しい助詞を選んだり、正しい文末表現を選んだりする学習
- ・ 文章の組み立てについてや、5W1Hについての学習

【話し言葉の力を高める指導の例】

- ・ 自分が体験したことについて、担当の先生に話す学習
- ・ イラストや写真の内容を説明する学習

【書き言葉の力を高める指導の例】

- ・ 短文作り、ミニ作文などを書く学習

【文章読解の力を高める指導の例】

- ・ 文章から分からない言葉を抜き出して、調べる学習
- ・ 手順を追いながら、問題を読解する学習

【その他】

- ・ 体験学習を通じた言葉の学習（調理活動、栽培活動、調べ学習 など）



<参考文献>・アセスメントにもとづく学齢期の言語発達支援, 学苑社【大伴潔、林安紀子、橋本創一】

・ことばをはぐくむ 発達に遅れのある子どもたちのために, ぶどう社【中川信子】